

## 6. 大型クラゲ出現調査事業

山口 功・舛田 大作・荒井 裕崎

近年、日本海沿岸でエチゼンクラゲの大量出現が頻発しており、定置網、底びき網などの網漁業において操業の遅延、漁獲物の鮮度低下、網の破損などの被害が見られている。長崎県においても夏季～秋季にエチゼンクラゲが大量に来遊し、同様の被害が報告されている。そのため、(社)漁業情報サービスセンターの委託により、大型クラゲの分布状況等を把握し、的確な大型クラゲに関する情報を漁業者へ提供することを目的として、陸上調査、洋上調査を行った。

### I. 陸上調査

各水産業普及指導センターと協力して、漁業協同組合など関係機関からの聞き取り調査を実施した。

#### 方 法

平成27年6月から平成28年3月までの約9ヶ月間、各水産業普及指導センターが聞き取った大型クラゲの出現状況を(社)漁業情報サービスセンターおよび長崎県水産部資源管理課に報告した。

#### 結 果

平成27年度における県内沿岸域での大型クラゲ出

現状況は、9月15日に初めて対馬市美津島町東部の定置網で2個体(傘径100cm)の大型クラゲが確認された。その後、11月まで対馬沿岸の定置網で大型クラゲがわずかに確認されたが、以後の出現情報は無かった。

#### ま と め

平成27年度の県内沿岸での大型クラゲの出現は、近年においては情報が少なかった。

### II. 洋上調査

調査船やセスナ機等を用いて大型クラゲの目視調査を実施し、調査結果を(社)漁業情報サービスセンターおよび長崎県水産部資源管理課に報告した。

#### 方 法

調査船により9月に五島灘を目視調査した。

また、セスナ機により3回(7, 8, 9月)、五島と対馬の周辺海域を目視調査した。

#### 結 果

調査船とセスナ機による目視調査では、大型クラゲが確認されなかった。

(担当：山口)